

## 家庭科2年・まちづくり(2単位)

### 目標

家庭基礎の目標に付け加えて次のようなことがあげられる。

- 1、 ヒトが人間としてよりよく生活していくための基盤となる「まち」をテーマにあらゆる方面から探求し、地域に発信し、共に「まちづくり」を担う力を養う。
- 2、「生きる」ことを「生活」「暮らし」の視点で分析し、各自がテーマを持ち調査研究するための情報収集において「まちの人々」へのアプローチをすることで、「人と人のかかわり」を実体験する。
- 3、 市役所などの公的機関や各界で活躍する卒業生の話を聞くことで、より専門的な知識を身に付ける。
- 4、 フィールドワークの大切さを学び、「気づき」を元に調査研究発表までのプロセスを学ぶ。

### 学習概要

- ・生活のいろいろな現象・課題をワークショップ形式で考える。まず、自分での考えをまとめて発表し、それぞれの意見を共有し、よりよい解答を導き出す。その意見を班でまとめ全体で発表する。
- ・集約した自分の意見を発表する機会が多くある。(プレゼンテーション能力を切磋琢磨する)
- ・必要に応じて専門家を授業に招き、指導助言をもらうことができる。
- ・机上の空論でなく、実際に各自の企画・施策を「まち」に働きかける。いわゆる「PLAN・DO・SEE」を試みる。
- ・「みんな集まれボランティア in いばらき」「ガンバる市」「TMO フォーラム」等への参加。

### 使用教材

- 教科書 特になし。教科作成のプリント使用  
副教材 インテリア・カラー・ブック(日本色研事業)

### 授業形式

講義・演習形式・実験・実習・フィールドワーク・イベント参加など多様な形態をとる。

### 家庭学習

地域の広報誌・情報誌を読む。新聞を読む。あたりまえの日常生活を丁寧に過ごす(暮らしの主人公であって欲しい)。このことが家庭科の学習において大切な家庭学習である。

### 評価

レポート・発表・授業で活用しているワークシート等や提出物。さらには授業の取り組みなどを、4つの観点(1、関心・意欲・態度 2、思考・判断 3、技能・表現 4、知識・理解)から評価規準を作成し、総合的に評価する。

年間授業計画

	月	学習単元	学習内容	備考
前	4	◎ 人とまちを考える	私的マップづくり 自分とまちを考えるきっかけをつくる	みんな集まれボランティア in いばらき参加
	5	◎ 住まいとまち	「私と公共」「まちの中の私」 どんな暮らしがしたいのか 「気づき」のワークショップ	街中イベントに参加 茨木市都市計画課出前講座、専門家の講義
期	6	◎ まちづくりとは？	衣・食・住・保育の観点や環境・緑化・商店街・住宅・街並みなどの具体的なテーマごとのワークショップ、フィールドワークを通して調査研究、マップづくり 前期総まとめ・進化したテーマを設定	タウンウォッチング
	7	テーマ別調査研究		
	8	研究発表・課題発見		
		前期末考査	(発表・レポートなどで評価)	
後	10	◎ 「まちづくり」に 新提案を	テーマ設定についての研究協議	フードマイレージのワークを通して交通と環境を考える。気づきのワークとして
	11		専門家や地域の意見を聞く。 地域と連携して動きを作る。	
期	12			
	1		中間報告・アドバイス	
	2		改善案・再思考	
	3	研究発表・まとめ	発表・総括	
		後末考査	(発表を評価)	

授業の進行状況をみながら次の項目を実施。尚、この授業は生徒の主体的な動きによって限りない可塑性を持つ。

- ・地域の伝統行事食をつくる
- ・「色彩」の学習
- ・外部講師による授業・ワークショップ
- ・TMOフォーラム・ガンバル市・などまちづくり企画に参画・参加